

2020. 2. 9 第二主日礼拝

マタイ 21:9-17「ダビデの子にホサナ」

聖書

9 群衆は、イエスの前を行く者たちも後に続く者たちも、こう言って叫んだ。

「ホサナ、ダビデの子に。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。ホサナ、いと高き所に。」

10 こうしてイエスがエルサレムに入られると、都中が大騒ぎになり、「この人はだれなのか」と言った。

11 群衆は「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言っていた。

12 それから、イエスは宮に入って、その中で売り買いしている者たちをみな追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。

13 そして彼らに言われた。『わたしの家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしている。」

14 また、宮の中で、目の見えない人たちや足の不自由な人たちがみもとに来たので、イエスは彼らを癒やされた。

15 ところが祭司長たちや律法学者たちは、イエスがなさったいろいろな驚くべきことを見て、また宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ」と叫んでいるのを見て腹を立て、

16 イエスに言った。「子どもたちが何と言っているか、聞いていますか。」イエスは言われた。「聞いています。『幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てられました』とあるのを、あなたがたは読んだことがないのですか。」

17 イエスは彼らを後に残し、都を出てベタニアに行き、そこに泊まられた。

はじめに

教会標語「神に向かって歌う」の思い巡らしを今日と再来週の2回で締め括ります。来週の礼拝はあかし礼拝であり岐阜教会との交歓講壇です。ぜひ

誘い合わせてお集いください。今日の礼拝では「ホサナ、ダビデの子に」ということばを中心に思い巡らしてみましましょう。ホサナとは、「どうか、救ってください」という意味のことばですが、転じて賛美の叫びの定型句となりました（9 節欄外注参照）。ホサナと賛美する人々の思いに迫り、私たちも同じように主に向かって「ホサナ」と賛美したいと思います。

1. エルサレム入京と賛美

マタイ 21 章は「エルサレム入京」と言われるイエスさまが都エルサレムに入られた日曜日のことが記されています。群衆はイエスさまをろばの子に乗せ、道に棕櫚の枝を敷いて「ホサナ、ホサナ」と言ってイエスさまをエルサレムに迎え入れました。イエスさまは何のためにエルサレムに入られたのでしょうか。それはこの日の 5 日後の金曜日に十字架にかかるためでした。イエスさまはご自分が十字架にかけられることをご存知でした。なぜなら、それが父なる神さまの御心だったからです。しかし、このとき誰一人そのような展開になるとは知らず、「ホサナ、ホサナ」と言って歓喜の声を上げ、イエスさまをエルサレムの都に迎え入れたのです。突然の騒動に「都中が大騒ぎになり、『この人はだれなのか』」（10 節）と、町中がちょっとしたパニック状態になったのです。

イエスさまがエルサレムに入って真っ先に目を付けたのは、荒れた神殿（宮）の中でした。荒れるとは建物が荒れているという意味ではなく、本来の神殿の在り方から大きく逸脱した状態を指しています。神殿の中で売り買いがなされているのをご覧になり、「わたしの家は祈りの家と呼ばれる。それなのに、おまえたちはそれを強盗の巣にしている」（13 節）と、両替人の台を蹴散らし怒りを露にされました。そのとき宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ」（15 節）と叫んでいるのを宗教家たち（祭司長や律法学者）が聞き、腹を立てるのです。イエスさまは宗教家たちに詩篇 8:2 の「幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てられました」ということばを引用して、今子どもたちの口を通して、わたしこそが世の救い主であり、神の子であることが証されたのですと、子どもたちの賛美を受け止めて

くださったのです。

2. ダビデの子にホサナ

「ホサナ、ダビデの子に。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。ホサナ、いと高き所で。」と賛美した人々は、イエスさまこそ旧約で預言されていた救い主であり、今ここに救いが到来したという意味を込めて賛美しています。しかしこのとき、すべての人々がイエスさまのメシヤ性を深く理解して賛美していたかどうかは疑わしいです。なぜなら、後に一部の人は手のひらを返しイエスさまを十字架につける側に回ってしまったからです。今礼拝をささげている私たちはそのようなことはないでしょう。イエスさまを救い主として仰ぎ、心から感謝の賛美をささげているわけですから。礼拝でささげられる賛美は常にそうでなければなりません。

世の喧騒や大人の事情を知らない子どもたちが、エルサレムの神殿でささげた「ダビデの子にホサナ」ということばには、図らずもイエスさまの本質が見事に表されています。大人は自分の経験や知識で物事をあれこれ論じますが、子どもはそんなことはしません。子どもたちの心は単純かつ純粹です。時にその口から出てくることばには真理が隠されていることが多々あります。もし大人が子どもたちのことばを退けてしまうなら、場合によっては神さまに敵対することになるかもしれないのです。大人はイエスさまを救い主として信じることに抵抗を感じるでしょう。自分の持っている知識や経験に照らしたとき、聖書には信じ難いことがたくさん書かれているからです。でも子どもはすぐにイエスさまを信じます。信じることを妨げる知識も経験もないからです。イエスさまも信じることにおいては、幼子のように素直でありなさいと言っていますが、大人はなかなか素直になれない面を持っています。信じることにおいては子どものようにでありたいと思います。

もちろん、何を信じるのかという内容についてはしっかり見極めなければ、異端や異教に惑わされてしまうので注意が必要ですが、信じるという行為においてはある意味単純さが求められるのです。私は大学生の時にイエスさまを信じて救われました。教会に通い始めて3ヶ月ほどで信じました。クリス

チャンホームで育ったわけではないので、聖書のことは全く分かりませんでした。たかが3ヶ月教会に通っただけで、イエスさまの何が分かっていたのかと問われれば、何も分かっていませんでした。でも、分からないなりにイエスさまを信じたいという思いになり、あと先考えず「信じます」と告白したことを思い返します。議論に議論を重ねて信仰に至る人もいますが、信じることにしてもう少し単純でも良いのではないのでしょうか。信じて害になるものはないのですから。

3. ホサナと賛美する一人を求めて

「ホサナ、ホサナ」と叫ぶ群衆や子どもたちの声を今日の私たちの賛美に変えようではありませんか。「ホサナ」とは「どうか、救ってください」という意味であることを冒頭にお話しました。

ここでパウロの葛藤に目を向けます。パウロはかつて教会を熱心に迫害した人ですが、後に改心してイエスさまの福音を世界に届けた人です。パウロは自分の内面を見つめた人でした。その結果、自分の中には善が住んでいないことを認めました。「私には良いことをしたいという願いがいつもあるのに、実行できないからです。私は、したいと思う善を行わないで、したくない悪を行っています。私が自分でしたくないことをしているなら、それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪です。そういうわけで、善を行いたいと願っている、その私に悪が存在するという原理を、私は見出します。」(ローマ7:18-21)と告白しています。

自分の願いと行動のねじれは誰にでもあります。そのような自分を変えるために、ある人は努力を重ねます。ある人は修行や瞑想などを経て神仏にあやかろうとするかもしれません。それによって生き方が変わる人もいますから、そのような生き方を認めますが、聖書はそれとは違う方法で人が変われることを提示しています。その方法とは、人は自分の努力によっては変われず、ただ唯一の神であるイエス・キリストのみによって生まれ変わることができるというものです。なぜなら、パウロが正直に自分の心を告白したように、人間の中心には罪が存在し、それが本当の自分の姿を歪め、こ

うありたいという願いを妨げているからです。その罪が除かれない限り、人は変わらないというのが聖書の示す救いです。その人間の罪の解決のためにキリストはこの世に来られました。ですから、キリストを通しての救い以外に人間が救われる道はないのです。「この方（キリスト）以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」（使徒 4:12）。自分を変えたいと願う方がおられたら、是非キリストの救いを求めてください。必ず変わることができます。

時に、キリストのみの救いという排他的なまでに強いメッセージに人は戸惑うかもしれません。あらゆるものを寛容な心で包む広さを好む日本人には、「キリストのみの救い」は狭さを感じ受け入れ難いと思う人たちがいることを理解しています。しかし、教会が「キリストのみの救い」の看板を下ろしたら、それはもはやキリスト教会ではありません。教会はキリストの救いを一人でも多くの方々に届けるために地上に建てられているのです。キリスト教会には、カトリック教会、聖公会、ギリシャ正教、ロシア正教、プロテスタント教会、ペンテコステ教会など、教会によって歴史や教会文化が違いますが、キリストの救いを否定する教会はありません。今年の私たちの教会は賛美の深化を目標としていますが、救われて「ダビデの子にホサナ」と賛美する人たちが起こされることを祈っています。イエスさまを信じて救われる方が一人、また一人と起こされる一年でありますように祈りましょう。

結び

イエスさまは「ダビデの子にホサナ」と賛美する私たちの声を聞いておられます。「イエスさま、どうか救ってください」と祈る祈りに答えてください。自分を変えたいと願う方は、イエスさまを呼び求めてください。「主の御名を呼び求める者はみな救われる。」（ローマ 10:13）というみことばが、今年この教会に、また地上のすべての教会に実現しますように祈りましょう。